

令和2年度 県立水海道第一高等学校 自己評価表

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・将来を担う人材を育成する学校 ・地域に貢献する学校 		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>○いばらき高等学校学力向上総合推進事業研究指定校として3年間の研究を通し、「わかる授業」を展開すべく校内相互授業参観，中学校での授業参観等を実施し授業の工夫・改善を推進し，成果が見られるようになった。しかし，目標とする家庭学習時間の達成には至っていない。そのため，今後は3年間を見通した指導法・指導体制の改善を図り，生徒の学習意欲を高めることで計画的に家庭学習を進め，学習時間の増加に繋げたい。</p> <p>○個別面談・日々のコミュニケーションを通して生徒と教員の信頼関係は構築されているが，発達に課題がある生徒やメンタル面で不安を抱える生徒の増加に伴い，スクールカウンセラーはもちろん専門家との情報交換を実施することが出来た。今年度も継続していく。</p>	授業の充実と学習習慣の確立	① 言語活動を充実させ，主体的・対話的で深い学びが実現できるよう授業の工夫・改善をし，「わかる授業」を展開するための公開授業の充実を図る。	B
		② 単位制のメリットを活かし，生徒各自の興味・関心・進路希望等に応じた科目を学習させる。特に，数学科・英語科および学校設定科目においては少人数授業を展開し，きめ細かな指導を充実させる。	B
		③ 自学自習の習慣化を図り，自主学習時間を増加させる。自主学習時間の目安を，1・2年次3時間以上，3年次5時間以上とする。	B
		④ 生徒の進路希望実現のため，平日・長期休業中における組織的・計画的な課外および全員参加による土曜課外を実施する。	B
		⑤ キャリア教育としての大学見学会や進路希望別ガイダンス等を実施する。	B
<p>○部活動加入率が高く活発に活動しており，多くの部活動で良い成績を残している。その反面，委員会活動においてはより自主的な活動を目標に支援していく必要がある。</p> <p>○地域貢献としてのボランティア活動に部活動単位・個人単位で参加している生徒が増えつつある。より積極的な活動が期待される。</p>	基本的な生活習慣の確立	⑥ 登校指導等を通して基本的な生活習慣の確立を図り，皆勤生徒数の増加を図るとともに，海高生として品位ある行動を確立させる。	B
		⑦ ・担任と生徒による個別面談を通して一人一人の悩みや不安に寄り添い，生徒理解に努める。（年間3回以上） ・教育相談体制を充実させ専門家の積極的・効果的な活用と関係機関との連携に努める。	B
<p>○積極的な広報活動により，志願者が増加している。保護者からの信頼も厚く，学校行事にも協力していただいている。広報活動をより充実させ，さらなる信頼へとつなげたい。</p>	特別活動の充実	⑧ ・部活動やホームルーム活動，学校行事を通して，明るく豊かな健康作りや体力作りを実践し，生涯にわたりスポーツに親しむ態度を育成する。 ・HR活動・生徒会活動・各種委員会活動の活性化および自主的な活動を支援し，実践力を高める。	B
	保護者・地域との連携の推進	⑨ ・学校説明会，ホームページの定期的な更新および広報紙等を通して情報を積極的に発信する。 ・地域との連携を推進し，生徒の積極的なボランティア活動を推進する。	A

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	国語	国語を適切に理解し、表現する能力を育成する授業を実践する。	観点別学習状況評価を充実させ、学習意欲と確かな学力の向上を図る。 ①②③④	B	B	今年度はICT機材を活用した授業の工夫も行った。また感染症対策を行いながら生徒同士が意見交換し能動的に学習できる機会を設けてきた。次年度はタブレット活用を視野に入れた授の工夫を目指したい。 考査問題については、今年度に引き続き大学入試共通テストを意識した作問に取り組みたい。
			授業形態を工夫し、生徒の能動的な活動を促す場面の設定を行う。 ①②③	B		
			既習教材の要約を通じて、文章構成を意識して評論文を読解する力を養う。 ①②	A		
			問題演習を行い、文法や単語の知識を解釈に活用する力を養う。 ①②	A		
	地歴 公民	主体的・対話的で深い学びを実践し、現在の活動内容の深化を図る。	生徒が授業を通して知識を整理し、考え方を深めることができるよう、積極的にグループワークやリフレクションを導入するとともに、ICT機器を活用した授業を展開する。 ①②③	A	A	休校期間中のオンライン授業を含め、ICT機器を活用した授業を実施することができた。授業等を通じて基礎的知識を修得させるようつとめたが、論理的に自らの思考を表現させる力を修得させるためには、更なる工夫が必要である。
			授業等を通して各事象の基礎的知識を身に付けさせるとともに、論理的に自らの思考を表現することができる力の育成を図る。 ①②③⑤	B		
	数学	基礎力の向上に努める。	習熟度別指導やグループ学習を使い分け、学習意欲を喚起し、基礎力の養成を徹底する。 ①②③	B	A	グループ学習はできなかったが、その他はおおむね効果的に実施できた。しかし、1, 2年次とも授業の遅れを取り戻せず、次年度は計画の見直し、授業進度の早期回復が課題。また引き続き教科内で教材、指導法等の研究を行い、基礎力の定着、思考力の育成を図ることが必要である。
			教科内で教材、指導法等について研究する。年間の指導計画に基づいて、週末課題や小テストを実施し、基礎力の定着を図る。 大学入試共通テストを意識した授業展開を検討する。 ①②③	A		
		上位層の育成を図る。	習熟度別指導やグループ学習と平日課外、土曜課外、個別指導等を活用し、応用力の養成に努める。 ①③④⑤	A		
	理科	基礎力の定着を図り、起伏がありわかりやすい授業を展開する。	学習内容が関連して理解できるよう、わかりやすい授業を構成して実施する。さらに、小テストやレポート等を課し、普段の授業理解を確認する。 ①③	B	A	感染対策を十分に組み込みながら、行える範囲で実験を行い、生徒の理解を深めることができた。また、PPを用いた授業を多く展開することで、生徒に視覚的に理解させるよう工夫した。次年度も引き続きわかりやすい授業を展開していきたい
			演示や考察を含めた実験、デジタル教材やアクティブラーニングなどを導入し、起伏ある授業を展開する。 ①	A		
	英語	学力向上につながる授業・課題・課外を工夫するとともに、生徒が自学自習できるようなはたらきかけをして、基礎力の定着・応用力の育成を図る。	ICTを活用し、アクティブラーニングとともに、自学自習においても、生徒が主体的に学習に取り組む姿勢を涵養する。 ①②③	A	A	少人数授業の効果的な活用法の再検討が必要になった。引き続き4技能の向上に努めるとともに、共通テスト対策を1年次より少しずつ取り入れ、備える。生徒の自主的な学習意欲の育成とともにリモートでの指導の充実を図るなど変化に柔軟に対応する。
少人数授業や課外授業を活用し、また個別指導においても、4技能強化を図るためのアウトプット活動を取り入れ、また習熟度別指導などを取り入れて学力向上を図る。 ②③④			B			
模試をはじめ、GTECや英検など外部検定試験に向けて指導体制を整え、成果が得られるようにする。 ④			A			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	保健体育	基礎的運動能力、体力の向上を目指す。	持久走の単元を生かして、有酸素運動能力の向上を目指す。 ①②	B	A	コロナ対応で制限は多かったが、体力テストに向けた体づくりに時間をかけたり、持久走の時間を確保できたりと、成果も多かった。次年度は新学習指導要領へ向けて、「する」だけでなく、「見る、支える」を含めた運動・スポーツとの関りを意識した授業と評価を実施したい。
		体ほぐし及び身体づくりの運動を積極的に取り入れ、上肢と体幹の筋力、走力の向上を目指す。	①②			
		主体的に体育・スポーツに関わる習慣を身につける。	運動と健康のつながりを理解させるとともに、選択授業の中で生徒主体の活動を促し、運動習慣の定着を図る。 ①②	A		
教科	芸術	芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、生涯にわたり芸術を愛好する心情を養う。	鑑賞の時間を充実させ、創造的な能力を高める表現の学習課題を工夫する。生徒の個性を重視した少人数指導により、個々の生徒の感性を伸ばす。 ①②	A	A	表現と鑑賞をバランスよく取り入れることができた。次年度は、特に鑑賞において、より生徒の関心に沿う内容にした。教科横断的な視点で他教科の内容とも絡めて授業を展開していきたい。
	家庭	これからの時代を生きる生徒が希望を持ち、たくましく、よりよく生きる力を身につけることを目指す。	生活に必要な知識、技術を身につけて自立し、異なる世代の人たちと共生する意識を養う。 ①③⑤⑨	A	B	・感染症対策を十分に取らなからできる範囲でグループ学習や実習を取り入れ、効果的な指導を行うことができた。次年度は生徒の思考の成熟を促すように指導を充実させていきたい。
			生活する上での様々な課題を主体的に理解させ、持続可能な社会をつくる一員としての意識を高める。 ①③⑤⑨	B		
情報	情報活用能力の向上を図る。コミュニケーション能力の向上を図る。	実習時間を確保し、情報活用能力やコミュニケーション能力の向上を図る。プログラミングを通してICT活用能力の向上を目指す。 ①②	B	B	スマートフォンを活用するなど、感染症対策を十分に取ながら実施することができた。新学習指導要領へ向けた環境整備が課題である。	
教務	授業の充実による学力向上	「わかる授業」を展開するために授業の工夫や指導体制の改善を行い、「校内相互授業参観」週間を充実させるなど、研修体制を整える。校外で行われる研修会へも積極的に参加するように促し、授業改善へとつなげる。 ①②	B	A	・令和4年度附属中学校開校を見据えて、必要な教材等を購入し、授業研究に生かせるように整備していきたい。 ・今後さらに進むIT化に対して、タブレット端末や電子黒板などの活用方法などを含めて早急に検討、研修の機会の設定などを積極的に行いたい。 ・オンライン学習に関する指導方法を継続して研究していきたい。 ・令和4年度からの教育課程編成に伴い、適切な学校設定科目の設定などを引き続き検討していきたい。 ・ホームページの更新作業などを教務部員以外の職員にもできるように権限の一部委譲などを検討していきたい。	
	適切な教育課程の編成	次期学習指導要領を見据えた教育課程を編成する。令和4年度併設型附属中学校開校に向けて、積極的に小中学校への授業参観などを計画し、情報交換に努める。魅力ある学校作りを目指して、各教科や分掌との連携を今まで以上に図る。 ②	A			
	生徒個別面談の充実	業務の効率化をさらに推進し、面談時間を確保できるように支援する。 ⑦	A			
	入試広報活動の充実	学校内外の「学校説明会」の場を利用し、中学生・保護者の本校への興味・関心を高める。管理職や部長職以外の教員の中学校・塾訪問を今まで以上に推進し、本校の教育目標や活動について積極的な広報に努める。 ⑨	A			
	地域との連携を目指した広報活動	ホームページの充実と積極的な情報発信に努める。 ⑨	A			
生徒指導	基本的生活習慣の確立	服装・頭髪指導の徹底を図るとともに、時間を守ることができる生徒を育成する。 ⑥	A	A	・交通ルール遵守を徹底するために、指導の行い方を再検討する。特に登下校時のマナーについて近隣からの苦情があった。 ・頭髪や服装、携帯電話の使い方などのマナーについて、ある程度疲ちまいてはいるが、今後も継続	
	マナーの向上(交通・挨拶等)	交通マナーアップ運動や交通安全教室等を通して交通マナーの向上に努める。 ⑥	B			
		朝の登校立哨・あいさつ運動などを通してマナーの向上とコミュニケーションの充実を図る。 ⑥	A			

スマートフォンの利用のルールを設定し、校内での使い方やSNSのトラブルに巻き込まれないよう注意を促す。

⑥

A

拾得品については、事後も継続的な指導が必要である。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
進路指導	キャリア教育の推進と学力向上	年次と連携し、ブリティッシュヒルズ語学研修、大学出前授業、大学見学会、進路希望別ガイダンスなどの進路関係行事を実施する。また事前・事後指導の充実を図り、進路意識を高める。 ⑤	B	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育のさらなる推進 →オンラインによる進路行事の検討、事前事後指導の充実 総合的な探究の時間を核にしたキャリア探究の検討 各種調査の有効活用 模擬試験・検定試験・共通テストの分析を通じた指導の改善とノウハウの継承 志望大学への合格率の向上 →生徒のキャリア形成にマッチした第一志望大学への合格に導く
		自主学習時間を記録することで自身の学習量を把握させるとともに、担任・教科担当者による意識づけを継続して行うことで、学習時間の確保・増加を促す。 ④	A	
		課外授業(平常・土曜・長期休業中)の充実、および模擬試験・検定試験の有効活用(データの分析から指導の改善)を図る。 ③	B	
		校内外の様々な企画(大学公開講座、サイエンスキャンプ、宿泊研修など)への積極的な参加を促す。また自身の活動履歴(ポートフォリオ)を継続的に構築させる。 ⑤	B	
	進路情報の活用	新入試制度についての情報を収集・整理し、生徒・保護者・教員間で共有を図る。適宜、教員研修会を設けるとともに、生徒・保護者に対しては、HR・面談・集会・講演会・進路だよりなどで情報を提供していく。 ⑤	A	
特活指導	生徒会・委員会活動の充実	学校行事では、生徒会の自主的、自発的な活動を尊重し、生徒が自ら考え、計画立案ができればよいとする。また、学校生活の充実と向上を図る活動も行う。 ⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動・委員会活動の活性化を図り、学校運営の中心を担えるようにしていく 地域貢献を積極的に行う
		各種委員会では、校内活動を中心に、学校生活をよりよくするための活動を行う。 ⑧	B	
	ボランティア活動をととした社会参画	ボランティア活動をととして、他校や、地域の人々との交流を図り、地域の社会づくりに参画しながら、地域貢献を目指す。 ⑨	C	
保健厚生	生徒の健康保持及び増進	熱中症や食中毒及びインフルエンザ等の感染症の予防対策を推進する。 ⑧	A	<ul style="list-style-type: none"> カウンセリングを要する保健室来室者が昨年度同様増加しているが、カウンセリングするための物理的環境が整わない状況が続いている。保健室以外の学習室や静養室の確保が望まれる。また、カウンセリングの予約過多ともいえる状況の中で、緊急性のある生徒への対応、多様化・複雑化する相談内容への対応などについても早急な検討の必要がある。 ごみの分別ルールの理解が教員・生徒共に不十分である。折にふれて説明と理解の場をもうけていきたい。 防火防災訓練
		保健室来室者の現状を把握し、保護者・関係職員と連携し、健康回復を目指す。 ⑧	A	
		防火防災訓練を実施し、防災意識の向上を図る。 ⑧	A	
	教育環境の美化	清掃の徹底とごみの分別などの環境美化活動を推進する。 ⑧	B	
		空調機器の健康的かつ効率的な運用を図る。 ⑧	B	
	生徒厚生の充実	各種奨学金の周知及び申請事務等を迅速に行う。 ④	A	
		パン販売・自動販売機等の運営を円滑に行う。 ⑧	A	
	メンタルヘルスケアの充実	スクールカウンセリングを定期的実施し(年30回以上)、生徒及び保護者の精神的支援に努める。 ⑦	A	
		カウンセリング前後に関係者との連絡協議を行い、必要に応じて外部機関との連携を図る。 ⑦	A	
	特別支援体制の充実	学校生活上、特別な配慮を必要とする生徒に適切な支援を行う。 ⑦	A	
学校HPやSC通信活用して、特別支援者への理解と周知を図る。 ⑦		A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
渉外	PTAの活性化を図る	本部役員を中心に会員全体が協力し、充実したPTA活動の実施に努める。 ⑨	B	B	「コロナ禍における新しい生活様式」に準えた「新しいPTA活動」ができるよう検討。
	各行事の充実	各行事等における保護者への積極的な呼びかけにより(HPの活用)、保護者の意識を高める。 ⑨	B		
図書	図書環境と出版物内容の充実	常時開放・常時閲覧。パソコンでの蔵書管理により新刊図書の紹介を円滑に行い、読書や調べ学習を援助。センターホールや年次フロアの有効活用。済美の発行。 ⑤⑧⑨	A	A	図書館利用者数の増加。調べ学習や進路選択に貢献できるような書籍の選定に力を入れる。
第1年次	基本的な生活習慣の確立	学校生活の規律を徹底し、規則正しい生活が送れるようにする。 ⑥⑦	A	A	服装・頭髮の乱れはあまり見られず生徒の多くは規則正しい生活を送っている。スマホの利用については最低限のルール・マナーを守れない生徒への改善指導が必要である。
		個人面談等を通して生徒の生活状況を把握し、個に応じた生活指導を行う。 ⑥⑦	B		
	基礎学力の向上と学習意欲の向上	日々の授業を大切にす姿勢の徹底を図るとともに、学習記録表やclassiを利用して生徒の学習状況を年次全体で把握し、学力の向上を図る。 ①～④	B	B	英教国を中心に課題提出や小テストなどを実施することで、基礎学力の定着が見られるが、平常時の学習時間が少ないなど家庭での学習習慣が確立できていない生徒が多い。学習することの意義を理解させるための継続的な指導が必要である。
		家庭学習時間の少ない生徒には面談等を行い、学習意欲の喚起を図る。 ①～④	B		
		学習意欲や進路意識の高い生徒に向けた集会や学習会を実施し、学力上位層の育成を図る。 ①～④	B		
		適切な学習課題を設定し、予習復習の大切さを認識させ、家庭学習時間の確保を図る。 ①～④	B		
自己理解の深化と将来像の明確化	進路指導の中で自己理解の深化を図り、将来像を明確にする。 ⑤	B	B	LHR・年次集会・講演会等を通して、多くの生徒に進路意識の向上がみられるが、各クラスには卒業後の進路について、まだ意識の低い生徒もおり継続的な指導が必要である。	
	総合的な探究の時間(「道徳」)やLHRを計画的に進め、将来の進路実現に向けて考える機会を数多く作る。 ⑤⑧	A			
第2年次	個に応じた進路指導の徹底	個別面談により進路希望を把握するとともに個に応じた学習・進路指導を展開する。 ④⑤	A	B	自分の生き方、あり方について考えさせる面談を実施することができた。次年度は、受験に直結した課外等を実施することでより高い進路意識を持たせるようにしていきたい。
		学力に応じた課外授業や補習授業を展開することで、高い進路目標を設定させるようにする。 ④⑤	B		
	学習スタイルの深化	それぞれの学習状況を把握し、予習・授業・復習のサイクルを徹底させる。 ①～④	B	B	各教科で出される課題や小テストをしっかりとこなすことを通して学習スタイルが確立できた生徒は学力が向上している。ただ、家庭学習習慣が確立できていない生徒が多く、家庭学習時間の絶対量は年間を通して少なかった。今後、大学入試に向け主体的な学習ができるように継続的な指導が必要である。
		成績中上位層に応じた学習指導を行い、学力を向上させる。 ①～④	B		
		成績下位層の生徒や学習時間の少ない生徒に対して、学習意欲の高揚を計る。 ①～④	B		
		課題や小テストを課すことで、主体的に学習する時間を確保する。 ①～④	A		
	自律ある学校生活の育成	2年次として後輩の規範となるべく自覚を促し、学校行事やHR・生徒会・各種委員会活動に積極的に参加させる。 ⑧	B	B	多くの学校行事が中止となる中、クラスや年次としての一体感を十分に作る事が出来なかった。それでも、部活動に一生懸命に取り組む後輩の規範となっている生徒も多数いた。
		保護者との緊密な連帯を図り、それぞれの進路実現に向けて生活習慣を再構築させる。 ⑨	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第3年次	進路希望の実現を目指した進路指導の徹底	個人面談を通して、生徒1人ひとりが抱えている課題を把握しながら、最後まであきらめない指導を展開する。 ④⑦	A	<ul style="list-style-type: none"> ・入試制度の変化に対応するため3年間を見据えて進路指導をしたが、生徒や保護者の受験に対する考え方等、本校の現状をもっと教員間で共有すべきであったと思う。大学受験指導において、最後まで自分と向き合って進路を考えることができない生徒もいた。 ・3年次、家庭学習の時間や内容の把握が十分にできなかった。教科指導にも関わってくることなので、データとして見える化し、共有しやすい形にする必要がある。
		学習状況を把握し、計画的・主体的な学習スタイルの確立を目指す。 ①③	B	
		生徒それぞれの学力を把握し、それぞれの層にあった課外や個別指導、進路行事を効果的にを行い、学力の向上を促す。 ②④	B	
		教員間での情報共有に努め、目標を合わせる。志望校分析会を行い、年次全体で生徒を見ていく姿勢で対応する。 ⑤	B	
		保護者への進路情報の提供を密に行い、進路希望実現に向け、連携を深める。 ④⑨	B	
	自律ある学校生活の育成	最終年次としての誇りと責任感を自覚し、学校行事への積極的な参加やHR活動や部活動の充実を図る。 ⑥⑦⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の面において、高校生活への慣れから服装・頭髪・生活習慣の面において指導を要する生徒が若干名いた。生徒が最高学年の自覚をもって自律した生活をするための指導を徹底する必要があった。
		生活習慣の見直しを常に考えさせ、受験生であるからこそその規律ある生活リズムの大切さを意識させる。 ⑥⑦	B	
		面談や情報交換から、生徒の問題行動や悩みなどの早期発見を心がけ、関係各部と連携し解決を図る。 ⑦	A	

※評価基準 A:十分達成できた(達成度80%以上) B:概ね達成できた(達成度60~79%) C:やや不十分(達成度40~59%) D:全く不十分(達成度39%以下)